

## 31-16 旧第一銀行熊本支店社屋に関する研究（1）

—平面・立面・構造について—

環境システム工学科 助教授 伊藤重剛  
大学院 松本隆之  
学部学生 曾宮健一

旧第一銀行熊本支店社屋は、大正8年（1919）に建設されたレンガおよび鉄筋コンクリートを用いた構造の建物で、当時の熊本では最新の構造・意匠をもった建物であった。その後、熊本中央信用金庫に所有が移ったものの、その姿は長らく熊本市民に親しまれてきた建物である。

本稿は平成8年に売却され、保存活用が問題になった際に行なった、この建物の実測調査に基づくもので、平面図・立面図・断面図などの基本図面を作成することを通じて、建物の現状を正確に把握すると共に、改造箇所・当初の姿を明らかにしており、近代建築史上の位置付けを試みるための基礎資料となるものである。

建物は比較的良好に当初の姿を留めていること、構造的にも今後の使用に十分耐えうることなどを明らかにしている。  
（日本建築学会九州支部研究報告・1998年3月）